

消防ヒヤリハットデータベース事例回答シート

【事故概要について】

1. 事故・ヒヤリハットの別	事故
2. 体験した事例の名称	密集地域における消火活動での輻射熱による顔面 I 度熱傷
3. 体験した事例の中心的要素	隊長として火災出動した事案で、現場到着時、火元家屋は火災の全盛期を向かえており、1階、2階のほとんどの窓から火煙が噴き出している状況であった。また、約5メートル離れた隣接の家屋2階への一部延焼が始まっていた。部下に延焼防止のため注水部署させた位置が、フェンスなどの立地条件により、火元家屋の火災から約3メートルであった。若干の熱は感じられたが、この場所なら安全と判断し、防火ヘルメットから顔面保護のシールドをさせ注水を継続させた。しかし、約15分後に部下の顔を確認すると頬がうっすら赤くなっており、軽い I 度熱傷(治療不必要)を受傷しているのを確認する。
4. 体験した事例の原因・理由	原因は輻射熱によるものと思われる。 理由として熱傷した部下は、経験豊富なベテラン隊員であったが、隣接の家屋への延焼防止に気がはっており、活動中は自分の顔がそこまで赤く熱傷しているとは感じていなかったとのこと。

【体験した事例の直接的な原因について】

1. 体験した事例の直接的な原因	行動の意志決定に問題があった。(大丈夫だろうと思った。)
------------------	------------------------------

【体験した事例について】

1. 発生日時	平成28年7月10日 午前10時頃
2. 発生した当時の天候	晴れ
3. 発生した活動現場	屋外: 火災現場、火元家屋と隣接家屋との間。
4. 体験した事例の種類	回答者が、他人を負傷させた。
5. 事故の程度(ヒヤリハットの場合、仮に負傷したときの程度)	軽傷の怪我
6. どのようなことが起きたのか(起きそうになったのか)	火傷・熱傷
7. 事例体験時の活動	火災現場活動中期、[木造建物]
8. (7の活動中)どのような作業中に発生したか	放水活動
9. 同様の体験は、これまでにどの程度の頻度で体験していますか。	これまでに1, 2回程度体験している。

10. ヒヤリハット体験当事者の属性（回答者は当事者A）



○当事者A	年齢[55]歳、勤続年数[37]年、現場経験年数[37]年、階級[消防司令] 同様の活動 [初めて]、任務 [複数隊の隊長]
○当事者B	年齢[59]歳、勤続年数[40]年、現場経験年数[40]年、階級[消防司令補] 同様の活動 []、任務 [隊員]
○当事者C	年齢[]歳、勤続年数[]年、現場経験年数[]年、階級[] 同様の活動 []、任務 []
○その他(当事者が4人以上の場合)	

11. 事例発生時の経過。



	誰が(何が)	なにをした	その他・備考など
経過1	消防隊	現場到着	
経過2	隊長(当事者)	延焼状況を確認し、注水場所を指示	
経過3	負傷隊員	ホース延長開始	
経過4	隊長(当事者)	注水場所の安全を再確認 延焼防止の注水を指示	
経過5	負傷隊員	放水開始	
経過6	隊長(当事者)	要救助者の有無確認 全体の放水体系を確認	
経過7	隊長(当事者)	負傷隊員の活動状況を確認	
経過8	隊長(当事者)	負傷隊員の顔の頬が赤くなっているのを確認	
経過9			
経過10			
経過11			
経過12			

【その事例発生時の状況について】



- 事故の場合：事故が起きたのはどうしてだと思うか？
- ヒヤリハットの場合：ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？

危険情報を把握、予見できなかった 指揮者が適切に指示しなかった 他隊(員)から適切な注意を受けられなかった

○心理・体調について

a. あせりを感じていた

・早く、現場到着や、活動をしなければならないという“あせり”を感じていた。	はい
・被害拡大が消防活動を上回っており“あせり”を感じていた。	はい
・周辺の野次馬などにより“あせり”を感じていた。	いいえ

b. 注意力が欠如していた

・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。	いいえ
・活動終息(鎮火等)や活動内容が些細だったため注意力を欠いた。	いいえ
・体調不良や疲れにより注意力を欠いた。	いいえ

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった。

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境(雨・濃煙)によって視界がさえぎられた。

・障害物(建物等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境(煙、暗闇、降雨等)のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	はい
・暑かった(寒かった)。	はい
・野次馬が多かった。	はい
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった(適切な指示を与えられなかった)。

・活動指示が得られなかった。(無線が通じない等。)	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	はい
・指示内容が実施困難であった。(周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。)	はい

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	はい
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】



○注意力欠如、焦り等の対策について

・活動に気がはっており、本人には気付かないところで発症していたため、隊長をはじめ、隊員間でも常に声をかけ確認して活動する。(部隊)

○装備・資機材の対策について

・防火ヘルメットのシールド使用だけでなく、呼吸器の面体を着装する。(部隊)

○活動環境の対策について

・個人活動を行わず、必ず2名以上での活動を基本とする。(部隊)
・危険予知についての教養。(部隊)

○指揮・情報伝達の対策について

・隊長は危険予知を冷静に判断し、隊員に二次災害の危険性を指示及び伝達する。(部隊)



